

## 資料3．ヒアリング調査からの主な関連事例

### 1．各地区における地域づくり活動・観光推進活動の事例

#### (1) 九条地区における大阪・九条下町ツアー体験(大阪市西区)

- ・九条の魅力は、交通の便がよく、物価が比較的安いこと。下町人情豊かな対面販売の市場がある。盆踊りの祭りなど、地域の行事に参加する人々が比較的多いと言われている。
- ・大阪ドームの完成を機に、近代的なドームがあるまち九条に、古き良き伝統や下町人情が残っていることを知ってもらうために、地元のボランティア・ガイドがまちめぐりのツアーを始めた。
- ・原則、春と秋の第3土曜日に定例ツアー「九条下町おもしろウォーク」を開催。
- ・希望に応じて修学旅行や校外学習の体験ツアーを受け入れている。

#### (2) 空堀地区におけるちんどん屋体験(大阪市中央区)

- ・空堀地区には、ちんどん屋を手がける事業所があり、中学校の修学旅行生を体験学習として受け入れている。公民館で練習をして、空堀商店街の通りなどでちんどん屋の体験をする。
- ・修学旅行生の体験の所要時間は3～4時間、商店街の歩行によるちんどん体験は30～40分間くらい。公民館を借りて説明を受けて練習をして、チラシを書いて街頭へ出かける。空堀商店街などを利用して、学校の紹介などを書いたチラシを配り、立ち止まって口上を述べる。
- ・学生のちんどん体験は、大きな音をたてて、人通りを妨げることにもなるため、地元の理解と協力によって行われている。

#### (3) 天神橋筋地区におけるあきんど体験(大阪市北区)

- ・大阪市天神橋筋地区は、自治組織の活動、商店街の地域活動が非常に活発な地域。代々住んでいる人がいるということがまちの強み。地域に伝統があり、ここに住んでいるという意識・誇り、この伝統を「つないでいかなあかん」という意識を強く持っている。
- ・天神橋筋の商店街では、修学旅行生等をたくさん受け入れている。修学旅行生への講義の内容は、「まち商人」と「企業商人」の違うということ、お客様を消費者と見ないで同じ社会人として見るということと、大阪弁の良さなど。講義の後、お好み焼屋等に派遣するか、修学旅行生自身が持ってきたものを屋台で売る。
- ・天神橋筋地区の観光資源は、天満宮、大川、扇町キッズパーク、住まいのミュージアム(大阪くらしの今昔館)、寺町周辺など。天神祭、えべっさん、造幣局の桜の通り抜けもある。

### 2．空き家活用の「民家風宿泊施設」利用における連携可能性の事例

#### 財団法人太平洋人材交流センター(PREX)

##### PREX 研修の概要

PREXでは、年間30件程度の海外訪日者を対象とした研修(国内研修および海外研修)を実施している。今年度は、33件の研修を予定しており、そのうち20件が国際協力機構(JICA)からの委託研修である。JICA研修では、費用を全額JICAが負担し、宿泊はJICAの国際センター(茨木または神戸)に決められている。JICA以外の国内研修は、今年度は6件であるが、いずれの研修でも国内または海外の委託元機関から宿泊設備はホテルを要望されている。また、その他7件は海外研修で、対象外となる。

#### PREXでの「民家風宿泊設備」利用の可能性

##### ・ J I C A 研修

J I C A 研修の土曜日または日曜日に、関西および日本文化をより理解してもらうことを目的として、「民家風宿泊設備」に宿泊するとともに、宿泊当日または翌日に、周辺の古い街並み等を見学することが考えられる。( J I C A の理解が得られることが前提となる )

##### ・ J I C A 以外の国内研修

J I C A 以外の国内研修でもホテルに代えて1日だけ「民家風宿泊設備」に宿泊することが考えられる。現在ある国内研修では、1日だけ温泉旅館に宿泊して日本文化に触れてもらうことをしている。この場合でも、上記と同様に国内または海外の委託元機関の理解を得ることが必要となる。

##### ・ 海外からのインターンシップ生受入の際の活用

P R E X では海外の関係先からの要望を受けてインターンシップ生を受け入れることがある。この場合には、P R E X が安い宿泊設備を探すことが必要となる。もし「民家風宿泊設備」の中に、インターンシップ生が宿泊できるような台所付きの安い宿舎(個室または一棟)があれば、数ヶ月間利用する可能性があると思われる。

### 3. 対個人サービス事業を営む障害者作業所の事例

#### 天保山地区でベジタリアン・レストランを営む障害者作業所(大阪市港区)

- ・ 精神障害者作業所(小規模通所授産施設)が、大阪市港区の天保山公園・海遊館近くに、野菜中心のメニュー(ベジタリアン)のレストラン「グリーンズ」を開いている。メンバーの多くは対面対応が苦手なためバイキングスタイルをとっている。近隣で働く女性などに人気がある。
- ・ 港区で運営している作業所が手狭になり、もう1つ作業所をつくるのであれば、メンバーから「お店」がいいという話になった。お店だと「外からの空気が入ってくる」という利点があり、そこでの人と人の関係がつけられる。「グリーンズ」は市民が自分たちで出資して始めたお店で、その後はじめからあった作業所と2つ合わせて「N P O 法人障害者の福祉を進める会みなと」を設立した。
- ・ 天保山商店街に加盟しており、「天保山まつり」にも参加・出店している。
- ・ 今回の海外訪日者向けアンケートでは、野菜中心のメニューを望む(ベジタリアン)海外訪日者が多く見られたことから、空き家を活用した宿泊サービスモデルを創造する上でも参考となる。

### 4. 他地域における空き家利用の宿泊サービスの事例

#### 豊島における空き家利用の簡易宿泊施設(香川県)

##### 豊島の空き施設を使った宿泊施設と利用客

- ・ 利用されていなかった2つの施設を簡易宿泊所に転用し、自治会が運営している。
- ・ 主な利用客は大学生で、口コミで増えてきた。安い値段でしばらく滞在できるということで大学生に利用されている。その間、学生は豊島を調査する。
- ・ 2つある簡易宿泊所の1つは、もとは保育所だったことから調理室がある。調理室が使えると宿泊費が安く(一泊¥2,000-食事なし)、長期滞在が可能となっている。

##### 簡易宿泊所の管理・運営

- ・ 自治会の役員達が管理人をしている。学生が来ることから楽しんでやっている。
- ・ 無人の放任管理で、利用は利用客のモラルに任せている。
- ・ 管理人の主な仕事は掃除。基本的には掃除は利用客が自分ですることになっている。たまにマナーが悪い人がいて、掃除をしないといけない。
- ・ 自治会の独立会計で修理費・維持管理費をまかなっている。自治会に利益は残らないが、宿泊客があることで地域のいろんなところに影響を与えている。